（作成年月日）

**(株)○○　農業参入計画書＜記載例＞**

**１　会社概要**

　　・社名（法人名）：(株)○○

＜市町村等への提出を想定する場合は記載＞

|  |
| --- |
| 　　・法人番号：００００００　　・設立：平成○年○月○日　　・資本金：０，０００万円（令和○年○月○日現在）　　・本社所在地：・〒０００－００００　北海道札幌市○○区北○○条西○○丁目○―○　　・支社・支店：北海道旭川支所、函館支社他（全国○カ所）　　・電話番号：（代表）：０００－０００－００００　　・ホームページURL:・売上高：（直近）０，０００万円（令和○○年○月期）　　・従業員数：○○○名（令和○年○月○日現在）　　・代表者（職・氏名）：代表取締役社長　○○　○○　　・業種：建設業、飲食業　　・事業内容：○○の製造・販売　　・関連会社：(株)○○、(株)△△　　・主要取引先：(株)○○、(株)△△ 他 |

**２　参入目的**

＜作成のポイント＞

|  |
| --- |
| **□　なぜ農業参入するのか、その理念と目標を**　・　本業の生き残り（収益付加、雇用維持）、既存農業との共存共栄、地域活性化への貢献など、従業員や地域に示す経営者の理念と目標が必要 ・　トップが農業に対する思いを強くしていることが大切・　目標を具体化するため、大型農業、野菜や花きなどの集約型農業、消費者と直結した農業など経営の戦略を練り、マスタープランを作成**□　本業の強み・弱み、経営を取り巻く外部環境の分析**　・　本業の強みを活かして農業に参入し、さらに本業の弱みを解消することが理想・　事業構想を具体化するために、実際の自社の強み・弱み、外部環境を具体的にしながら分析した戦略を作成**□　母体企業の資源を農業に組み合わせる**　・　異業種が組み合うことで、相乗効果を生むことも大切。双方の経営資源をうまく組み合わせることで、早期な経営安定が可能　・　農業分野と母体企業の繁忙期が重ならないよう作物選択を行うことも重要。異　　業種が組み合うことで、作業の平準化と労働余剰の解消 |
|

　　・農業参入する経緯

　　　：本業である飲食店で使用する食材を生産することで、安定確保及び顧客に自家生産のこだわりを発信するため。

　　・どのような経営を目指すのか

　　　：創業からの理念である「食を通じた社会貢献」の精神に基づき、安全安心な食品の提供にこだわり続けている。生産が安定した段階で、減農薬栽培に取り組み、付加価値の向上を図るとともに、本業のイメージアップに繋げる。また、社員の農業体験・従事により食料を作る大切さを共有する。

：将来的に資金力の弱い新規就農者を従業員として雇い、後押ししたい。

　　・具体的な事業内容

　　　：年間○○○ｔ、生食用として品質と安全性が高い野菜の生産を目標

　　・強み

　　　：本業が飲食店なので、相乗効果が期待できる。

　　　：店舗での高品質な野菜の使用・提供による来店者の増加、職員が交替で生産に従

事することで品質へのこだわりや、直接仕入れることにより鮮度の良さを発信で

きる。

　　　：本業の閑散期が農業の繁忙期に当たり、安定して労働力を確保できる。

　　・弱み

　　　：農業分野に初めて進出するため、経験が不足している。

　　　：農業に詳しい社員がいない。

**３　目指す農業経営の姿**

＜作成のポイント＞

|  |
| --- |
| **□　地域の農業について情報を収集し分析**　・　農地の状況や生産を予定する農畜産物、必要な生産技術や人材、施設・設備に関する地域農業の状況、さらに近隣市町村を含め情報を収集し分析**□　生産技術の確保**　・　農業分野では、経営成果を左右する大きな要因として技術力があるので、未経　　験の事業を軌道に乗せるためには、一定の期間で技術力を養成することが重要で、期待に応える人材の確保が重要　・　農作業に必要な労働力の確保も重要であり、こうした労働力の資質向上のため、　　農業機械の運転などの農業技術や農作物に対する知識などを一定水準まで習得さ　　せることが重要 |
|

　　・経営耕地面積：【当初】　　ha

　　　　　　　　　 【目標】　　ha

　　・栽培品目：○○（選定理由：飲食店で提供するため）

　　・栽培方法：○月～○月の間　施設栽培（ビニールハウス○○棟）

　　・農業施設：

：当初の施設（ビニールハウス○棟）

：最終的な施設（ビニールハウス△△棟まで増やす計画）

　　・農業機械：トラクター（所有）、コンバイン（リース）

　　・栽培技術・労働力確保の考え方

：花・野菜技術センターが実施する野菜栽培の研修に社員１名を６ヶ月間受講させる

予定

：野菜の栽培技術に長けた○○ ○○を雇い入れ予定。

　　　：本業の閑散期に社員を農業に従事させることで、労働力を確保していきたい。

　　・労働力

：農場長（営農技術者）：○○　○○

：従業員：常勤２人、パート：５人

：社員の農業従事：常勤１人、繁忙期の応援２人（上記の内数）

　　　：年間労働時間　　　時間、（うち１人当たり年間労働時間）　　時間

　　・参入形態

　　　：リースor適格法人設立

：最初から所有を目指す

or最初はリースで参入し、後に農地所有適格法人を目指す　など

**４　栽培計画**

＜作成のポイント＞

|  |
| --- |
| **□　生産しようとする作物に適した農地の確保が可能か点検**　・　参入後に土地改良、特に排水改良を行わなければならない事例があるので、前耕作者の利用状況、ほ場の広さ、団地化の程度、ほ場の形、傾斜、排水性、気象条件（気温、降水量、積雪、風の強さ）の情報の収集**□　参入地域の生産状況の把握**　・　参入地域における農産物の市場価格、標準的な生産原価、必要な施設・機械、労働力、生産資材などの情報が不可欠　・　収量、品質などは、地域の技術水準が目標となるので、単位当たり収量や品質規格などの目標を設定するには、地域の技術水準に関する情報を収集 |
|

　・農地の特徴（農地の確保の目処が立っている場合）

：農地はまとまっていて、営農しやすい形。なだらかな傾斜があり、水はけ良好。

　・作付面積、収穫量、単位収量、労働時間（初年度、５年目）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | １年目 | ５年目 | 備考 |
| 作物名 |  |  |  |
| 作付面積（㎡） |  |  |  |
| 収穫量（kg） |  |  |  |
| 単位収量（t/10a） |  |  |  |
| 労働時間（ｈ） |  |  |  |

**５　販売計画**

＜作成のポイント＞

|  |
| --- |
| **□　販路の検討**　・　参入時は、商品の販売促進活動などマーケティングの経験が浅く、参入後も苦　　労することが予想される。農業をはじめてから売り先を探しては遅いため、戦略の構築段階で具体策を決めておくことがポイント　・　販売ルートは、それぞれ長所・短所があり、目指す経営戦略と商品の特徴に合わせて選択することが大切　・　参入当初は、収量や品質の確保が難しいため、売上が低く、軌道に乗るまでには年数を要することを認識し、それを踏まえた計画を作成すべく的確な情報収集が必要 |
|

　・販売方法：JA出荷（６割）、本社飲食店に卸す（４割）

　・販売先、販売量、販売単価、販売額（初年度、５年目）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | １年目 | ５年目 | 備考 |
| 作物名 |  |  |  |
| 販売先 |  |  |  |
| 販売量（kg） |  |  |  |
| 販売単価（円/kg） |  |  |  |
| 販売額（円） |  |  |  |

**６　経営資産**

＜作成のポイント＞

|  |
| --- |
| **□　資金の確保**　・　営農の実績がないので、参入時の資金調達は、銀行融資や農業関係資金をはじ　　め、選択の幅を持って検討　・　米や畑作物等は、春先から営農を開始し、販売代金は秋の収穫以降に計上され　　るので、運転資金の調達を検討　・　雇用の確保と余剰労働力の解消などの事業戦略がある場合、独立採算を基本と　　しながらも、母体企業との連携を検討 |
|

　　・収入（農業収入、その他収入、収入計）

　　・支出（賃借料、水道光熱燃料費、種苗・肥料・農薬費、資材費、減価償却費）

　　・農業所得

　　・償却資産、取得価格、残存率、耐用年数、年償却額

　　・資金調達方法、活用を検討している金融資金

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | １年目 | ５年目 | 備考 |
| 収入 | 農業収入 |  |  |  |
| その他収入 |  |  |  |
| 収入計（A） |  |  |  |
| 支出 | 賃借料 |  |  |  |
| 水道光熱燃料費 |  |  |  |
| 種苗・肥料・農薬費 |  |  |  |
| 資材費 |  |  |  |
| 減価償却費 |  |  |  |
|  |  |  |  |
| 支出計（B） |  |  |  |
| 農業所得（円）　（A）－（B） |  |  |  |
| 総労働時間（ｈ） |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 償却資産名 | 取得価格 | 残存率 | 耐用年数 | 年償却額 |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| 計 |  |  |  |  |

**７　参入までのスケジュール**

令和○年○月○日　受入可能性のある地域について現地調査

　　　令和○年○月○日　事業計画書の作成、参入条件すりあわせ

　　　令和○年○月○日　農場長、営農技術者の確保

　　　令和○年○月○日　農地取得

　　　令和○年○月○日　営農開始

**８　相談した関係機関**

　　　令和○年○月○日～　北海道農政部農業経営課に企業参入について相談

　　　令和○年○月○日～　花・野菜技術センターに栽培技術について相談